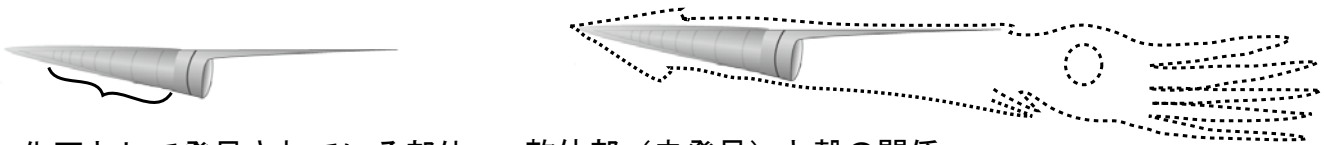




## - 現生のイカにつながるグループの 進化を解明 -



論文に掲載された穂別産ロンギベルス・マツモトイ



化石として発見されている部位 軟体部（未発見）と殻の関係

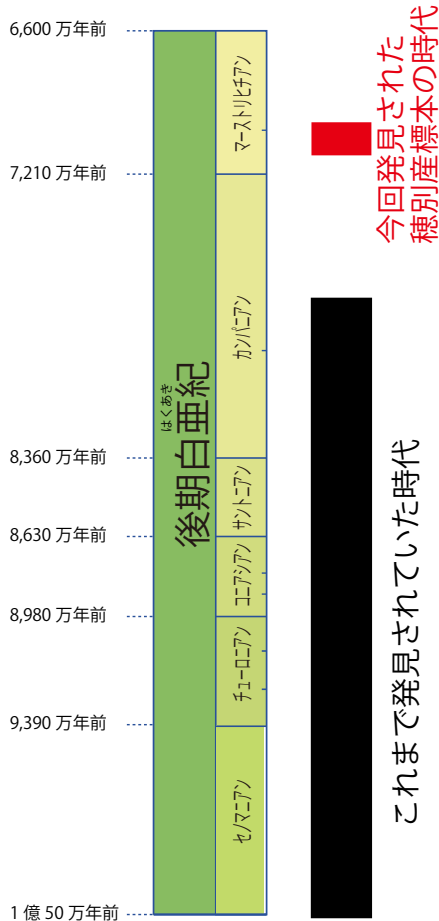
ベルリン自由大学（ドイツ）のデーク・フックス先生を中心とする研究グループは、穂別博物館の収蔵資料も用いた研究を行い、その成果を英国の古生物学会誌（*Palaeontology*; パレオントロジー）で公表しました（9/11にオンライン版で公開）。

北海道の白亜紀中ごろから後期の地層からは、謎の鞘形（しょうけい）類化石が多数産していることが、古くから知られています。これらは、1991年にナエフィア・マツモトイ（*Naefia matsumotoi*）として記載されましたが、鞘形類の進化における位置づけについては不明な点が多いままでした。

フックス先生を中心とする研究グループは、この問題を解決するため、主に白亜紀の中ごろから後期（約1億2,000万年から6,600万年前）の鞘形類化石の標本とデータを世界中から集め、殻の微細構造（結晶構造）や殻の表面の装飾パターンから、その系統・進化史について再検討しました。

その結果、おもに北海道から産する謎の鞘形類（ナエフィア・マツモトイ）は、チリなどから産するナエフィア属（トグロコウイカ目）とは異なるものであることが明らかになりました。この新属ロンギベルス（*Longibelus* n. gen.）（北海道産のものはロンギベルス・マツモトイ）として記載したグループは、白亜紀の中ごろから後期にかけて、主に太平洋地域に分布しており、現生のイカを含むグループである十腕形類の祖先にあたることを明らかにしました。

## - 穂別産標本は中村剛瑠さん（当時穂別小学校6年生）が発見・寄贈 -



この論文で用いられた穂別産（穂別博物館収蔵資料）の標本は、北西太平洋地域で最も若い（新しい）地層から産した標本として、はじめて報告されました。

この標本は、穂別博物館の「石割り化石さがし」という、化石が入っているかも知れない岩石（町が借りている土地から採集）を差し上げ、その岩石を割って化石を探してみるという行事で、中村剛瑠（たける）さん（2009年当時穂別小学校6年生）が発見し、穂別博物館に寄贈していただいたものです。この標本が産した場所からはアンモナイトや二枚貝が多産しますが、ロンギベルスは、この1個体のみしか産していないこと、また北西太平洋地域において最も若い（新しい）時代の地層から産した標本であり、この種の絶滅時期を知るためなどにおいて重要なものです。

### 北西太平洋産ロンギベルスの産出層準と穂別産標本の位置

発表論文； Dirk Fucks, Yasuhiro Iba, Christina Ifrim, Tomohiro Nishimura, William J. Kennedy, Helmut Keupp, Wolfgang Stinnesbeck, and Kazushige Tanabe [デヤーク・フックス（ドイツ ベルリン自由大学 助教）、伊庭靖弘（北海道大学 助教）、クリスティナ・イフリム（ドイツ ヘidelberg大学 助教）、西村智弘（穂別博物館 学芸員）、ウィリアム・ケネディー（英国 オックスフォード大学 教授）、ヘルムート・コイプ（ドイツ ベルリン自由大学 教授）、ウォルガン・スティスベック（ドイツ ヘidelberg大学 教授）、棚部一成（東京大学名誉教授）], 2013, *Longibelus* n. gen., A new Cretaceous coleoid genus linking Belemnnoidea and early Decabrachia.

Palaeontology, vol.56, p. 1086–1106. (9月11日にオンライン版が発行済み)

(学芸員 西村智弘)

### ミニ展示 白亜紀鞘形類ロンギベルス・マツモトイ

2013年10月1日（火）～12月1日（日） 穂別博物館特別展示室

展示内容；穂別産標本と研究成果の概要について

### [アクセス]



開館時間 9：30～17：00（最終入館 16：30）

入館料 個人 / 小～高校生：100円

大人 300円

団体 / 小～高校生：50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

### 休館日

10月

7(月) 15(火) 16(水)

21(月) 28(月)

11月

5(火) 6(水) 11(月)

18(月) 25(月)

### 特定入館日

(町民入館無料日)

11月3日(日・祝)

11月23日(土・祝)